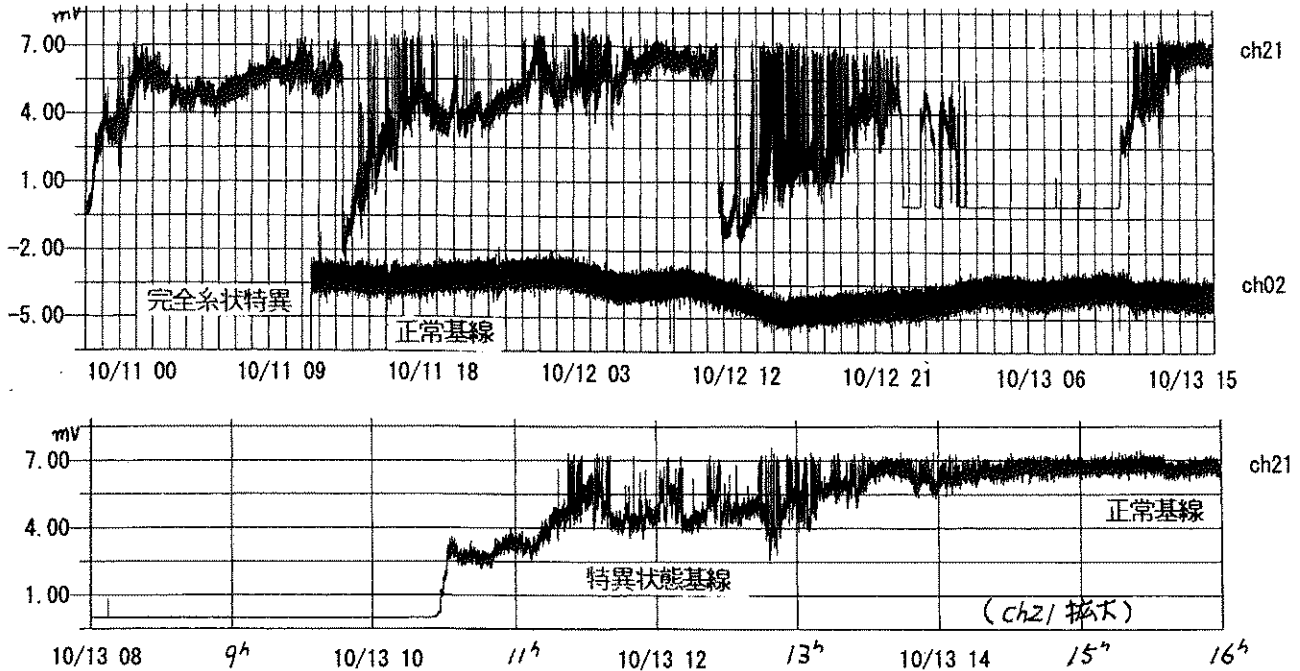


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

8年間継続した No.1778 長期継続前兆 全て終息の可能性



前兆再出現なければ⇒10月18日発生の可能性有

8年3ヶ月継続した観測例の無い、長期継続特殊前兆No.1778は、第18ステージ認識です。明確な極大=09月26日・09月30日に対する前兆終息を待っておりました。09月21日から完全系状特異となったch02は上掲載基線のとおり、10月11日10時30分頃に静穏化し、通常基線を記録したし、既に53時間以上通常静穏基線を記録しております。完全終息の可能性有。

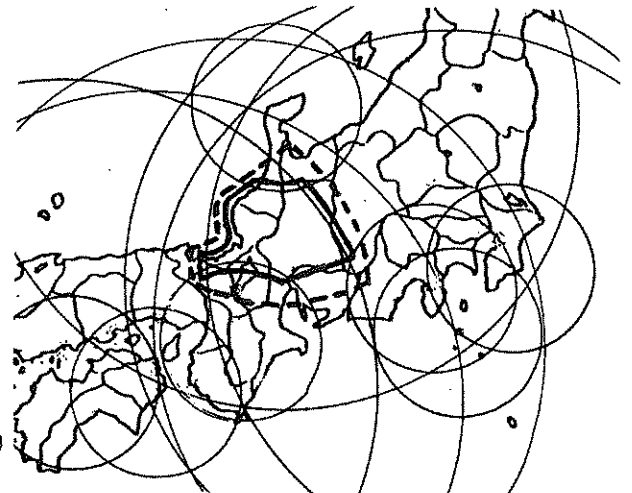
また、ch21特異状態は、本日10月13日15時頃より通常基線電圧値7.00mV付近で真っ直ぐな綺麗な直線基線を記録したし、現時点も正常基線を記録し続けております。上掲載基線参照。このまま正常基線が継続するか否かは、今後を観測して確認必要。T_{fap}:T_{map}=20:13とT_{fap}:T_{pp}=6:1経験則から、T_{map}:T_{pp}=3.9:1が求められます。(T_{map}=極大~発生 T_{pp}=発生直前静穏期間)

09月26日と09月30日極大が認識できますが、最終的な前兆終息を後の極大に対応させて計算したいと考えます。09月30.0日極大と10月13.6終息の観測事実から上経験則に当てはめると、10月18日午前中発生の可能性が示唆されることとなります。今後前兆が再出現しないで、このまま静穏基線が継続観測された場合は、10月18日発生の可能性が推定されることとなります。

No.2830(10/7 配信) 観測情報で報告の通り、8/7極大のS型火山帯近傍地殻地震前兆が、他期間のS型と異なり八ヶ岳南麓のみの出現であることから、8/7極大S型が8/29~活動開始の富山東部の群発地震前兆である可能性が高く、富山群発がNo.1778と関係がある根拠は見いだせません。富山群発地震がNo.1778前兆と直接的な関係がある根拠はありませんが、長期出現の火山帯近傍地殻地震前兆はNo.1778と関連がある可能性は否定できず、No.1778の活動域が火山帯近傍である可能性は否定できません。

※8/7 極大のS型火山帯近傍地殻地震前兆が八ヶ岳南麓のみの出現(小規模活動の場合は活動域に近い観測点のみに出現。8/7極大以外は全観測点に同期出現)と8/6~8/末期間のみに秋田観測点のみの櫛歯前兆があることから富山群発前兆である認識をNo.2830で報告済。HPでは未報告です。お許し下さい。

- ◆推定領域：右図点線領域内付近=大枠推定領域
太線領域内付近=可能性考え易い推定域
(火山帯近傍地殻地震前兆が関連がある場合には、
ある程度火山帯に近い領域の可能性が示唆される)
 - ◆推定規模：M7.8±0.5
 - ◆推定時期：10月18日(誤差±1日)
(最大誤差=10月18日±2日)
 - ◇推定地震種：震源の深さ30km以浅の陸域
日本列島地殻地震
 - ◇推定発生時刻：午前9時±1(又は午後6時±3)
- C) Copyright 2016 YSBO八ヶ岳南麓天文台



※上記発生時期推定が否定される前兆再出現等が観測された場合は、続報で修正させていただきます。